

## 令和 4 年度第 2 回岸和田市文化振興計画懇話会の意見概要

## 1. 情報発信について

- ・市の広報紙は効果があるが、世代に限りはある。演奏会でのアンケートでも、市の広報紙を見て来た人が多いとの結果がある。個人的な感覚では、広報紙は、60 代以上には効果があるが、若い人はほとんど見ていない。

HP を作ったが、管理費や更新の手間がかかっていた。だんだんと HP が見られなくなり、次にフェイスブックを作ったが、そのうち時代遅れになり、若い人はフェイスブックを見なくなり、今はツイッターかインスタに変わってきている。

全ての方法で情報を発信できれば、全世代を網羅できるが、SNS 管理者の負担が大きく、常に新しい情報を発信していくことが難しい。

- ・教室や講演では、ネット配信も同時に行うなど、発表の手法も変わってきている。
- ・東大阪市ではライン登録すると、ゴミ出しなど市の情報を知らせてくれる。今までは市の広報紙を見て情報を得ていたが、広報紙を見なくても生活情報だけでなく、イベント情報など全ての市の情報が届くので便利。

## 2. コロナによる文化活動の影響について

- ・コロナで一度文化活動がつぶされ、今はもう一度立ち上がってきている時期。市として、文化活動を続けている、または活動できなくなった団体をどう支えていくかが計画に書かれていない。
- ・P43 の評価指標の数値が前回と比べ格段に落ちているが、前回の計画と同じ目標設定している。数値の落ち込みについての分析や考察が必要。

## 3. 今後の文化活動支援について

- ・今活動している人も含め、どう支援できるのか。広報支援や活動場所の確保などの手助けをしていく、そのうえで子ども達への体験へと繋げられるのではないか。アンケートを見ても、カリキュラムで取り組めない学校に対しての意識付けを改善していかないといけない。
- ・東大阪市のような事例で、市だけでなく登録した市民団体の活動も一斉に情報を発信できるようにすれば、文化活動の広がりにつながるのではないか。